



横浜スペイン協会

スペイン・サロン



「ベラスケスと絵画の栄光」展記念講演

『“画家たちの画家” ベラスケスー静かなる絵画革命』

早稲田大学名誉教授 大高保二郎



2018年2月24日より上野の国立西洋美術館において、プラド美術館所蔵「ベラスケスと絵画の栄光」展が開催されます。本講演は同展を記念して、スペインはもとよりヨーロッパのバロック美術において特異な位置を占める巨匠ベラスケス絵画の美術史的な意義とその現代性を明らかにするために企画しました。近代絵画の父エドゥアール・マネは1865年、はるか遠くスペインにまで旅してプラド美術館（当時は王立）を訪ね、初めてベラスケスの真作を見出したときの鮮烈な印象を友人の書簡の中で、「画家たちの画家」（*le peintre des peintres*）と形容して称賛しました。講演では、ベラスケス絵画の成立（ボデゴンと肖像画）からその完成（物語絵）にいたるプロセスをクロノロジカルにたどり

ながら、究極的にはベラスケスの人間性や魅力、そこに秘められた野望などをお話していきます。

日時：2018年3月10日（土）

14：00～16：00

場所：かながわ県民センター（304号）

横浜駅西口より徒歩5分

参加費：1,000円

お申込み&お問合せ：

Tel&Fax：0467-43-6973

kfk.2010@clear.ocn.ne.jp

マドリードを訪れた人なら必ずやプラド美術館に足を運ぶことでしょう。プラド美術館と言えば、まずはベラスケス。縦2m超の大作「王太子バルタサール・カルロス騎馬像」は、本邦初公開です。3月のスペイン・サロンは、上記のテーマで大高先生にお話しを伺います。この記念講演に、皆様のご参加をお待ちしております。

※1月4日より受付開始

大高保二郎氏

プロフィール

早稲田大学名誉教授。マドリード・コルプルテンセ大学哲・文学部大学院美術史に留学（1973-76年）、早稲田大学大学院博士課程満期退学（1977年）。専門はスペイン美術史、バロック美術。跡見学園女子大学、上智大学、早稲田大学各教授を歴任。著書に『ベラスケス』（中央公論社）、ピカソ美術館4『戦争と平和』（集英社）、『スペイン 美の貌』（ありな書房）、『ゴヤ：戦争と平和』（新潮社）、最新刊『肖像画一姿とところ』（共著、集英社）。ピカソ展監修・論文執筆（1995、2002、03、04年）、共編・訳書に『ゴヤの手紙—画家の告白とドラマ』（岩波書店）など。

会田由翻訳賞受賞（2011年）。



